

学力向上を支える取組

1 教務部

学力向上を支える取組として教務部では、全国学力・学習状況調査の結果より、本校児童の苦手な部分などを把握し、それらを学力向上プランに取り入れることを考えた。そこで、平成19年4月に実施した全国学力・学習状況調査の結果について、傾向と対策を考えた。

(1) 教科ごとの結果

全体の結果

「知識」に関する問題については、相当数の児童が今回出題された学習内容を理解しているが、「活用」に関する問題については、「知識」に関する問題に比べて正答率が低い傾向がみられた。由宇小学校に限らず、県・全国も同様の傾向が見られた。

国語 A (主として知識に関する問題)

分類・区分別集計結果での平均正答率は、山口県・全国より全て高く、平均正答率は86.7%で相当数の児童が今回出題されている学習内容を理解していると考えられる。しかし、「話す・聞く能力」の観点では、他の観点より正答率が低い結果が見られた。

【相当数の児童ができている点】

- ・学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を正しく読む。(98.3%)
- ・文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を正しく使う。(99.6%)
- ・指示語の種類や役割を押さえた上で、文脈の中における働きを理解している。
(96.1%)
- ・説明文の段落の内容をとらえる。(90.8%)

【課題がある点】

- ・話の要点を聞き取り、効率よくメモを取る。(59.2%)

国語 B (主として活用に関する問題)

平均正答率は山口県の60.0%、全国の62.0%を上回る66.0%であるが知識・技能を活用する力に課題があるという結果になった。

【課題がある点】

- ・取り上げた事実が、どのような理由で述べられているかについての的確に読み、その理由を要約する。(51.3%)
- ・情報の中から必要な事柄を取り出し、新聞の一部に注意点として書き換える。
(51.3%)
- ・二つの文章を比べて読み、共通する書き方の良さや工夫を評価し、自分の考えとしてまとめる。(56.6%)

算数 A (主として知識に関する問題)

平均正答率は山口県の80.5%を上回り、全国の82.1%を下回る81.6%であり、相当数の児童が今回出題されている学習内容を理解していると考えられる。

【相当数の児童ができている点】

- ・ 整数、分数のたし算、引き算、かけ算、わり算などの基礎的な計算をすることができる。(96 . 9 %)

【課題がある点】

- ・ 小数や分数を比較し、数直線上に表すことができる。(31 . 6 %)
- ・ 小数の乗法の意味について理解している。(55 . 3 %)

算数B（主として活用に関する問題）

平均正答率は山口県の62.1%、全国の63.6%より上回る65.0%であるが、平均正答率から考えると知識・技能を活用する力に課題がある。

【相当数の児童ができている点】

- ・ L字型の図形の面積の求め方を表す式を読み取ることができる。(93 . 4 %)
- ・ 棒グラフから人数の大小を読み取ることができる。(92 . 1 %)

【課題がある点】

- ・ 帯グラフから割合の変化の様子を読み取ることができる。(47 . 4 %)
- ・ 条件を基に各曜日の代金を求めて比較することができる。(22 . 4 %)
- ・ 問題の条件を整理して、筋道を立てて考えることができる。(56 . 6 %)
- ・ 地図を観察して図形を見だし、面積を比較して説明することができる。
(13 . 2 %)
- ・ 式の形に着目して計算結果の大小を判断し、根拠となる考えを説明することができる。
(55 . 3 %)

(2) 対策

学力調査を受けた6年生は、3・4年と国語科算数科で少人数指導を受けていた。個に応じた手厚い指導ができていたことが成果を上げたのではないかと考えられる。また、基礎・基本の時間に学習を積み重ねてきたことから、繰り返し練習を行うことができ、それがA（主として知識に関する問題）での成果につながったと考えられる。6年では、少人数担当教員はついていないが、単元によってはT・Tを取り入れ、指導を徹底させるようにしている。これまでの指導の成果が出たことから、これからも少人数指導やT・Tによる指導を継続していきたい。

今回の全国学力・学習状況調査の結果より、知識・技能を活用する力に課題があることが分かった。この結果を基にして、知識の活用を意識した学習指導を進めていきたい。教務部として以下の点に留意して指導を進めることを考えた。

実際の各生活場面を取り上げていく

体験を取り入れた授業を心がける

教科横断的な授業や合科的な授業を取り入れる

家庭学習の課題の出し方の工夫（家庭学習の充実に向けて）

以上のことを意識しながら指導することを通して、知識・技能を活用することができる児童を育てていくと共に、本校の研修テーマにもある、確かな学力を身につけ生き生きと学ぶ児童を育成していきたい。

学習への身構え・物構えの共通理解事項

学習への身構え

- ・授業開始時刻までに席に着く。(教室移動を終える)
- ・学習に必要なものは出さない。
- ・下敷きを敷く。
- ・呼ばれたら返事をする。
- ・引き出し・ロッカーの中を整理する。
- ・席を離れるときは椅子を入れる。
- ・次の授業の準備をして席を離れる。(教科書・ノート・下敷き・筆箱)
- ・10分休憩は遊び時間ではない。(トイレ、水分を摂る、係の活動、移動等)

学習の物構え

- ・筆箱の中に準備する物
 - えんぴつ5本
 - 赤青えんぴつ1本
 - 消しゴム1個
 - ものさし1本
 - 油性フェルトペン1本
- ・下じき
- ・色鉛筆
- ・道具ぶくろの中に入れておく物
 - はさみ
 - のり
 - セロハンテープ
- ・学習に必要な物は持ってこない。
(シャープペンシル、マスコット、ストラップ類等)(お守り、防犯ブザーは除く)
- ・ボールペンは赤青えんぴつの代わりならばよい。(学年の発達段階に応じて)
- ・マーカー、マジック類、修正テープ類は、基本の筆箱とは別の入れものに入れて、必要な時のみ持参する。
- ・彫刻刀、カッターナイフ等刃物は、学習に必要な時のみ持参する。学校では担任が集めて管理する。
- ・髪飾りは、つけない。ゴムの色は黒か茶
- ・髪型は、肩にかかったら結ぶ。
- ・ミサガは、衛生上、安全上好ましくないのでつけない。

* 指導方法

児童用プリントを配布し、学活等で時間をとって指導する。

保護者会でも説明し、新年度に向けて学用品を準備する際に確認していただく。

- 筆箱 . . . 缶ペンケースや鍵付きでないものが望ましい。

えんぴつ 5 本
赤青えんぴつ 1 本
消しゴム 1 個
ものさし 1 本
油性フェルトペン 1 本

家でけずってくる

シャープペンシルは不可
柄のないもの

- 下じき
- 色えんぴつ
- 道具ぶくろ



はさみ
のり
セロハンテープ

すべての持ち物に名前をかく。
学習に必要なのない物は持ってこない。
忘れ物をしない。

